

第3回

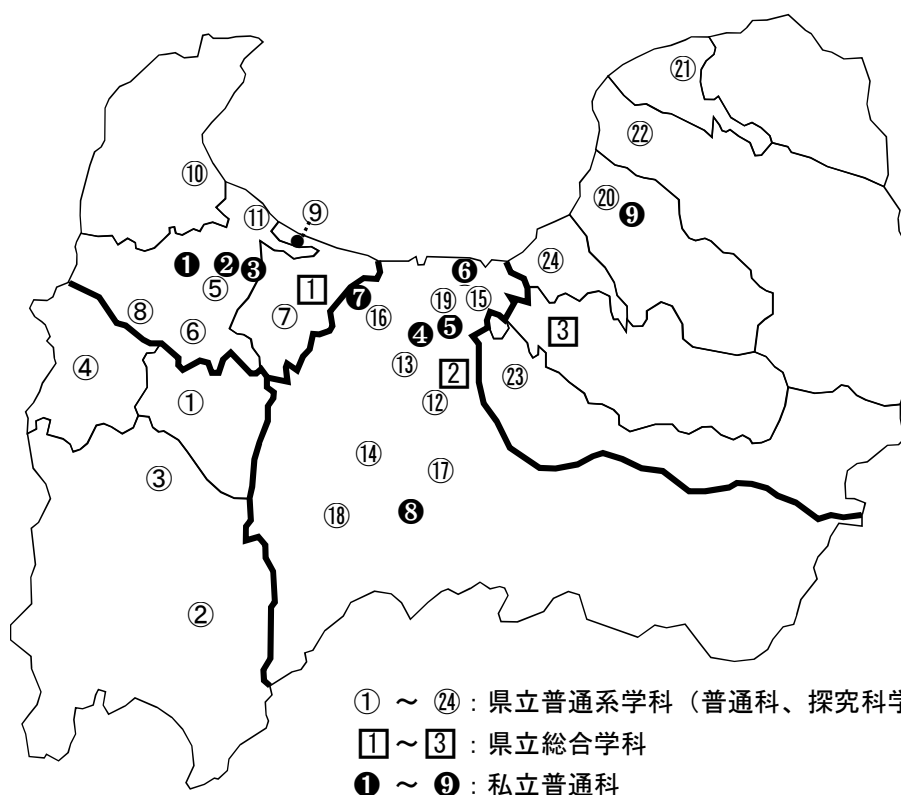
資料2

| | | |
|-----|-------------------|------|
| 1 | 普通系学科・総合学科を取り巻く状況 | ・・・1 |
| 2 | 様々なタイプの学校・学科 | |
| 2-1 | 中高一貫教育校 | ・・・7 |
| 2-2 | 国際バカロレア（IB） | ・・・9 |

1 普通系学科・総合学科を取り巻く状況

【論点】

- ・時代に即した教育活動を推進するための普通系学科・総合学科のあり方
- ・中学校卒業予定者数の減少に伴う普通系学科・総合学科のあり方



【県立高校】

() 内は R4 年度の募集定員

| | | 砺波学区 | 高岡学区 | 富山学区 | 新川学区 |
|-----------|--------|--|--|---|---|
| 普通系 学科 | 普通科 | ①砺波 (160) ②南砺平 (30) ③南砺福野 ■(160) ④石動 ■(120) | ⑤高岡 (200) ⑥高岡南 ◎(160) ⑦大門 ◎(120) ⑧福岡 ◎(120) ⑨新湊 ■(120) ⑩氷見 ■(120) | ⑫富山 (200) ⑬富山中部 (200) ⑭富山西 (160) ⑮富山東 ◎(240) ⑯呉羽 ◎(230) ⑰富山南 ◎(200) ⑱八尾 ◎(160) ⑲富山北部 ◎■(120) | ⑳魚津 (160) ㉑入善 ◎■(160) ㉒桜井 ■(120) ㉓雄山 ■(120) ㉔滑川 ■(80) |
| | ※探究科学科 | — | ⑤高岡 (80) | ⑫富山 (80) ⑬富山中部 (80) | — |
| | 国際科 | ③南砺福野 ■(国際 30) | ⑪伏木(国際交流120) | — | — |
| 総合学科 | | — | ①小杉 (160) | ②富山いずみ ■(150) | ③上市 (150) |

◎ : 普通科コース設置校

■ : 職業科併設校

【私立高校】

() 内は R4 年度の募集人員

| | | 砺波学区 | 高岡学区 | 富山学区 | 新川学区 |
|-----|---|------|---|---|-----------|
| 普通科 | — | — | ①高岡第一 (255) ②高岡向陵 (175) ③高岡龍谷 (145) | ④龍谷富山 (265) ⑤富山第一 (395) ⑥高朋 (100) ⑦富山国際大学付属 (250) ⑧片山学園 (110) | ⑨新川 (125) |

※片山学園については、片山学園中学からの進学者を含む

【理数科学科・人文社会科学科（※総称として探究科学科）】

数学や理科に関する専門性の高い学習に重点を置く「理数科学科」と、国語や地理歴史、公民、英語に関する専門性の高い学習に重点を置く「人文社会科学科」を設置し、理系・文系の両分野で、探究的な学習やより高度な学習に取り組み、高い学力や科学的な思考力、課題解決能力などとともに、高い志や豊かな人間性など、高校卒業後の大学等での学問研究や社会で活かすことができる能力の育成を目指している。

【国際科】

各学科に共通する各教科の学習が中心だが、特に、外国語や国際理解に関する専門的学習に重点をおいている。英語や中国語などの実践的な語学を学び、国際感覚を身につけ、国際社会に対応できるコミュニケーション能力の習得を目指している。また、海外への語学研修や友好校からの受入れて、生徒との交流を通して、異文化を体験している。

【総合学科】

総合学科は、普通科、専門学科のいずれにも属さない「第3の学科」と呼ばれている。この学科の特徴は、普通教科及び専門教科の両方の多様な科目を開設するとともに、科目選択や進路選択に関するガイダンス機能の充実を図り、生徒が興味・関心、能力・適性、進路希望等に基づき履修科目を選択できるようにしている点にある。総合学科を設置している各校では、学校の実情に合わせて、テーマ性をもった選択科目群「系列」の開設やグループで取り組む課題研究の実施など多様な教育課程を編成し、一人一人の生徒に応じた学習活動が行われるよう取り組んできたところである。

【普通科コースの設置状況】

入善 (自然科学、観光ビジネス)
富山南 (国際)

八尾 (福祉)
大門 (情報)

富山北部 (体育)
高岡南 (人文科学)

富山東 (自然科学)
福岡 (英語)

※()内はコース名、___は1年次から開設

1 現状と課題

- ・ 県立高校全日制を希望する中学生の内、6割以上が普通系学科を希望しているが、普通科については、希望割合が減少傾向にある。一方、総合学科、職業系専門学科は増加傾向にある。[表1]
- ・ 普通系学科については、一般入学者選抜検査における志願倍率が減少傾向にある。[表2]
- ・ 募集学級数については、中学校卒業予定者数の減少に伴い、普通科系学科が減少傾向にある。[表3]
- ・ 普通科コースについては、生徒の興味・関心に応じた特定分野の科目選択が可能である。一方、普通科の学級減に伴い、普通科コースの相対的な割合が増え、学校運営上、困難をきたす場合がある。
- ・ 普通科コースとして魅力を発揮できている学校がある。一方、中学生やその保護者に学習内容等が十分に理解されていないコースもある。
- ・ 総合学科については、中学生の入学希望者数が募集定員を上回っている。一方、学級数の減少に伴い開設できる講座数が減少している。
- ・ 入学者の学力層が従前より幅広くなっていると指摘する学校もある。

[表1] 中学校及び義務教育学校卒業予定者の県立高校（全日制）進路希望状況

| 年度 | 区分 | 普通系学科割合 | | | 総合学科割合 | 職業系専門学科割合 | |
|-----|----|---------|---------|-------|--------|-----------|-------|
| | | 普通科割合 | 探究科学科割合 | 国際科割合 | | | |
| H22 | | 65.7% | 2.4% | 0.5% | 68.6% | 6.3% | 25.1% |
| H26 | | 63.3% | 2.2% | 0.8% | 66.3% | 7.3% | 26.4% |
| H29 | | 64.3% | 3.1% | 0.7% | 68.1% | 6.6% | 25.3% |
| H30 | | 61.0% | 3.9% | 0.9% | 65.8% | 7.1% | 27.1% |
| R1 | | 60.0% | 4.5% | 0.9% | 65.4% | 6.9% | 27.6% |
| R2 | | 60.0% | 4.7% | 1.0% | 65.7% | 7.1% | 27.2% |
| R3 | | 60.3% | 4.4% | 1.0% | 65.7% | 8.4% | 25.9% |

※県立学校課調べ（各年5月1日）

※義務教育学校はR2年度より開設

[表2] 県立高校(全日制)一般入学者選抜検査における志願倍率の推移

| | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 5年平均 |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 普通系学科 | 1.12 | 1.09 | 1.07 | 1.05 | 1.05 | 1.08 |
| 総合学科 | 1.42 | 1.42 | 1.14 | 1.07 | 1.47 | 1.30 |
| 職業系専門学科 | 1.18 | 1.21 | 1.21 | 1.12 | 1.04 | 1.15 |
| 県平均 | 1.15 | 1.14 | 1.11 | 1.07 | 1.07 | 1.11 |

[表3] 県立高校(全日制)の募集学級数の推移(上段:学級数 下段:割合)

| | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 普通系学科 | 114 | 105 | 106 | 101 | 98 | 97 |
| | 62.3% | 60.3% | 61.3% | 59.4% | 59.0% | 59.1% |
| 総合学科 | 12 | 12 | 11 | 12 | 12 | 12 |
| | 6.6% | 6.9% | 6.4% | 7.1% | 7.2% | 7.3% |
| 職業系専門学科 | 57 | 57 | 56 | 57 | 56 | 55 |
| | 31.1% | 32.8% | 32.4% | 33.5% | 33.7% | 33.5% |

※氷見高校の農業科学科と海洋科学科は、農業と水産のそれぞれに1学級として集計
 ※R2.4に8校を再編統合し、新高校4校を開校

2 特色ある取組み

- ① Society5.0 社会に対応した人材育成 ～問題解決能力、問題発見能力の育成～
 - ・総合的な探究の時間における課題解決型学習
 - ・大学や研究機関と連携した探究活動
 - ・海外研修(大学見学、現地で活躍する日本人起業家との懇談など)
 - ・「環境国際会議」や「北東アジア青少年グローバルリーダー育成事業」に参加
 - ・実際に大学等の授業を受講して単位修得する「学校外の学修」
- ② 地域や産業界との連携
 - ・地域企業の見学や、職業人による講演
 - ・近隣保育所との合同避難訓練や、小中学生を対象とした学習会等の開催
 - ・「HIMI学」など地域の歴史や文化を学ぶ科目の開設
 - ・世界文化遺産で観光ガイドボランティア
 - ・地元イベントでの吹奏楽部、書道部などのステージ発表や、運営ボランティア
- ③ 魅力発信
 - ・探究科学科設置校による「三校合同課題研究発表会」の開催
 - ・「魅力あるとやまの県立学校」配付、「学びの体験オープンハイスクール」開催
 - ・学校紹介動画の配信

【参考1】探究科学科の取り組み例

○探究活動の事例

- ・1年一週3時間、1班16人が国語・地歴公民・数学・理科・英語それぞれの課題を通して、探究活動に必要な能力を養い、「読み解く力」や「探究力」の伸長を図っている。
- ・2年一週2時間、班ごとに自ら設定した課題（以下の例）について探究活動を行っている。

○探究科学科における課題研究のテーマ例

「ストローの上に人が乗れるって本当ですか!？」

1. 目的 ストローを用いて上からの力に1番強くなる骨組みの構造を調査し、ストローの上に人が立てるようになることを目指す。
2. 方法 クギを使わずに木材だけで建物を作る日本の伝統技術「木組み」と同じ要領で、ストローを用いて柱が4本の立方体の構造物を作成した。この形を「基本形」とし、そこにストローを4本まで追加して補強してもよいという条件を課して様々な構造物を作成した。これらの構造物の上におもりをのせ、補強をいれた位置と耐荷重の関係を測定した。また、この実験の結果から作った構造物に鉛直方向に力を加えたとき、バランスが崩れないことが重要だと考察し、各構造が水平方向の力にどの程度耐えられるかを測定した。
3. 結果 「基本形」に対角線となるストローを4本入れた場合、鉛直方向で73.5N、水平方向で12.1Nまで耐えることができ、どちらの方向の力に対してもこの形の一番耐久度が高かった。
4. 考察 「一番強い構造」を6個組み合わせることで、計算上約45kgの人が乗ることができるが、柱となるストローにすべてに均等に体重を乗せる必要があり、その仕組みづくりが必要である。また、構造物の配置の仕方も様々な組み合わせが存在するため、配置の仕方についての研究も重要な要素となると考えられる。
5. 結論 ストローに人が乗れるかどうかは、発表当日を楽しみにしてください。

「彩色研Bi ～ビスマスの色、制御します。～」

1. 目的 融解したビスマスから取り出すことができるビスマスの骸晶は、その冷却の過程において生じる酸化被膜の厚さに応じ、黄→紫→青などに色づくことが知られている。本研究では、冷却時における気体の組成と、ビスマスの骸晶の色の関係について検討した。
2. 方法 ビスマス塊をステンレス容器に入れ、ガスバーナーで加熱して融解させた後、加熱を止めて鉄製クリップを浮かべた。クリップ上に生成したビスマス骸晶を取り出し、酸素、窒素、二酸化炭素をさまざまな割合で混合した気体環境下で、十分に放冷して、骸晶表面の色の違いを観察した。
3. 結果 酸素と二酸化炭素の混合気体を用いた実験では、二酸化炭素が100%のときに骸晶の色は黄色となり、酸素の割合が増大するにつれて青みが強くなった。また、不活性ガスである窒素を用いた場合、予想に反して酸素が存在しないにも関わらず、ビスマス骸晶の色は紫～青色になった。
4. 考察 ビスマス骸晶は冷却時の酸素濃度が高くなるにつれ、酸化被膜の形成速度が増大するため、厚みのある酸化被膜が形成され青く色づいたと考えられる。窒素を用いた実験の結果では、ビスマスと窒素が何かしらの化合物を形成している可能性が示唆されるが、詳細は不明である。
5. 結論 酸素濃度の増大に応じてビスマス骸晶の色は黄色～青色に変化することが確認された。今後は、窒素についてさらに研究を深めるとともに、ほかの気体や電気分解による酸化の可能性についても考えたい。

「家庭内改革 ～私たちのミライ予想図～」

1. 目的 コロナ禍において夫婦で過ごす時間が増え、夫が家事を手伝わず、ストレスを抱える妻が増加した。この背景には、伝統的性役割志向の存在がある。共働き世帯が増えた親世代においてもなお、女性に家事の負担が偏っている。また、このことが及ぼす影響として、子ども達、つまり私たちが大人になったときに固定的な性別役割期待を引き継いでしまうのではないかと考える。私達は、未来の家庭内のジェンダーをなくしたい!と考え、このテーマを設定した。
2. 方法 先行研究を参考に、本校探究科学科2年生・探究科学科保護者・教員を対象に性役割指向性調査を実施し、男女間、世代間の比較をした。また、富山県民共生センター訪問・育児休暇を取得した男性へのインタビューを通して、富山県の夫婦の家事、育児に関する実態を調査した。
3. 結果 伝統的性役割期待は減少していると思われるが、やはり男性の意識が遅れ、高校生は関心が低い。男女が子育てや家庭を両立させる制度はあっても活用が進んでいない。
4. 考察 社会においてジェンダーフリーの意識は広まりつつあるが、家庭内においては性別役割分担が固定されたままである。高校生のうちから家庭内におけるジェンダーフリーを自分事と考えておくことが大切だと考える。

【参考2】地域との協働の取組事例

○氷見高校の事例（文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」事業特例校）

- ・氷見市役所、事業所等と連携しながら、実施している「未来講座 HIMI 学」のテーマ例
「氷見に若者がUターンや移住するには」・「氷見産木材が活用されるためには」
「氷見での滞在型観光推進に必要なものは」・『ぶり奨学金』の活用には何が必要か」
「エネルギーの効率と地産地消を高めるためには」・「高校生が将来を真剣に考えるためには」
「氷見の農業環境の保全のためには」・「富山湾に棲息する魚類の進化と生態について」
「観光庁誘客多角化コンテンツ実証事業『るるぶ氷見』・『るるぶキッチン』」
「春の中学生ハンドボール選手権大会リーフレット『氷見とハンドボール』」
「フィッシュレザーから考える」・「健康で安全なまちづくり」

○雄山高校の事例（地元市町との連携協力に関する包括協定）

- ・観光関連の講師を招き、観光とまちづくりなどについて学び、その成果を町長に発表

○その他の学校の事例

- ・地域資源を活用した社会参画力の向上（八尾高校）
班ごとの八尾地域実地調査や聞き取り調査等
- ・五箇山地域についての探究活動を通じた「課題解決力」と「情報発信力の育成」（南砺平高校）
五箇山地域と他地域の比較調査、世界遺産集落在住者の意識調査等
- ・総合学科の特色を生かした地域連携教育とキャリア教育の推進（上市高校）
総合型地域スポーツクラブ等との交流会、町内企業職場見学等

【参考3】幅広い学力層への取組み例

- ・中学校までの学習状況を把握しながら、必要に応じて中学校での学習を振り返る。（学び直し）
- ・確認小テストで授業の理解度を把握し、指導法の改善につなげる。
- ・全クラスで朝学習を行い、授業への取り組み姿勢を向上させた。
- ・学習意欲を喚起する週末課題を工夫し、家庭学習の習慣と計画性を身に付けさせた。
- ・「学び方」を含めた学習オリエンテーションの充実を図った。

【参考4】文部科学省の動向

○普通科改革

高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化が図られ、文系・理系の類型にとらわれずに、生徒の特性を踏まえた学習の機会を提供する新たな学科の設置が、令和4年度から設置者の判断により可能となった。

①学際領域に関する学科

- ・現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

②地域社会に関する学科

- ・現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元市町村を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

③その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

2 様々なタイプの学校・学科

2-1 中高一貫教育校

1 中高一貫教育制度

中高一貫教育は、生徒や保護者が、これまでの中学校・高等学校に加えて、6年間の中高一貫教育をも選択することができるようにすることにより、中等教育のより一層の多様化を推進するものとして、平成11年4月から制度化されている。

【中高一貫教育の実施形態】

- (1) 中等教育学校
 - ・1つの学校として、一体的に中高一貫教育を行うもの。
 - ・前期課程は中学校の基準を、後期課程は高等学校の基準を準用。
- (2) 併設型の中学校・高等学校
 - ・高等学校入学者選抜を行わずに、同一の設置者による中学校と高等学校を接続。
- (3) 連携型の中学校・高等学校
 - ・市町村立中学校と都道府県立高等学校など、異なる設置者間でも実施可能な形態で、中学校と高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流等で連携。

2 中高一貫教育の特色

- ・安定した環境の中で、6年間の学校生活を送ることができる。
- ・6年間の計画的・継続的な教育指導を展開することができる。
- ・6年間にわたり生徒を把握することができ、個性の伸長や優れた才能を発見できる。
- ・学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し、社会性や豊かな人間性を育成できる。

3 入学者選抜

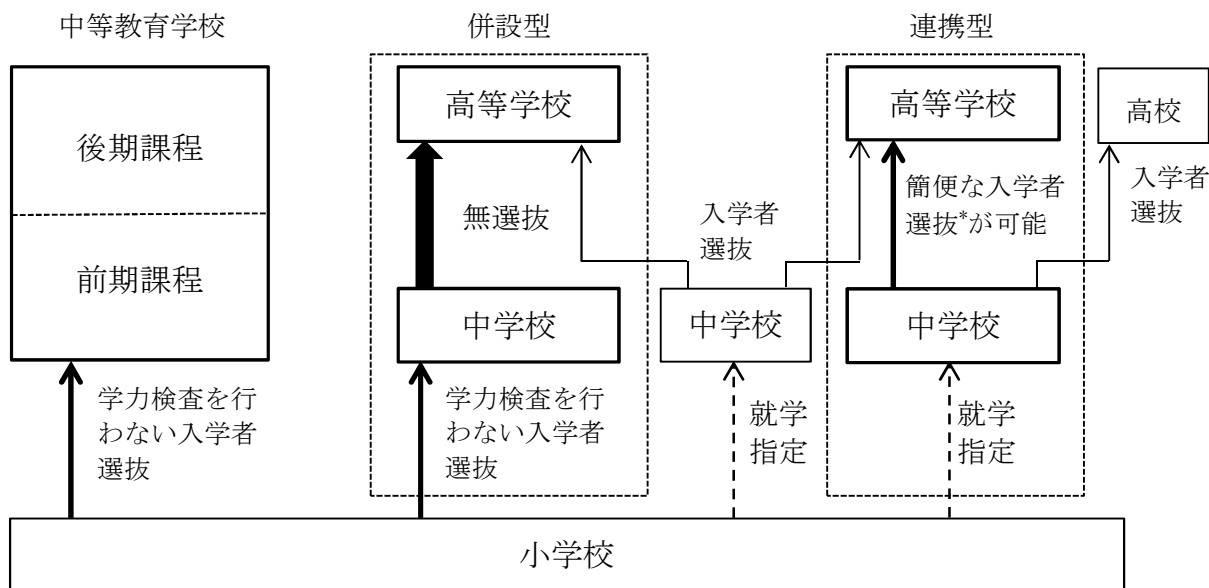
(1) 中学入試

公立の中等教育学校や併設型中学校においては、設置者の定めるところにより校長が、入学者を許可し、この場合、学力検査は行わないこととしている。

(2) 高校入試

併設型中学校から併設型高等学校への進学に際しては、入学者選抜は行わない。他の中学校から併設型高等学校への入学は入学者選抜が行われる。

連携型については、連携型中学校から連携型高等学校への進学の場合、調査書及び学力検査の成績以外の資料により選抜できていることになっている。



*調査書及び学力検査の成績以外の資料による選抜

4 全国の県立中高一貫教育校設置状況

(R3年度)

| 中等教育学校 | 併設型 | 連携型 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|
| 25 | 81 | 80 | 186 |

5 本県のこれまでの議論

(1) 「県立学校教育振興計画 基本計画」(H19.12)より

教育活動全般を通じた全人教育を目標とし、6年間の継続的、計画的な教育活動を行う中高一貫教育校については、県内の地区バランス等に配慮して設置することが望ましい。

接地に当たっては、市町村立中学校への影響等を勘案し、市町村教育委員会とも十分協議の上、検討を進めることが必要である。

なお、本小委員会においては、中高一貫教育校の形態について、「併設型中高一貫教育校を設置することが望ましい」という意見が多かったところであるが、今後、設置に向けた具体的検討においては、併設型、中等教育学校など設置形態についても十分検討する必要がある。

(2) 「県立学校整備のあり方等に関する報告書」(H28.4)より

教育活動全般を通じた全人教育を目標とし、6年間の継続的、計画的な教育活動を行う中高一貫教育校は、多くの都道府県で設置されている。

本県においても、6年間を通して社会性や豊かな人間性を育成する意義や、生徒・保護者の学校選択幅の拡大という観点からも、設置に積極的な意見がある。一方、併設型中高一貫校や中等教育学校においては、周辺地域の中学校への影響や、学力検査による入学選抜を実施できないことによる学力の課題があるとの指摘があり、また、本県の地理的状况を考慮すると、連携型中高一貫校の設置には消極という意見があることから、引き続き、慎重に検討する必要がある。

(3) 「富山県県立高校教育振興会議の報告」(H30.1)より

教育活動全般を通じた全人教育を目標とし、6年間の継続的、計画的な教育活動を行う中高一貫教育校は、多くの都道府県で設置されている。

本会議においても、社会を変革するリーダーの育成には全人格的な教育が必要との観点から、設置に積極的な意見がある。

一方で、市町村立中学校の学級編制等への影響から慎重に考えるべきとの指摘があり、また、連携型の中高一貫校設置には消極との意見もあることから、引き続き、慎重に検討することが望ましい。

6 先進校例（福井県立高志中学校・高等学校：併設型）

(1) 学校概要

①開設時期

- ・平成27年4月 福井県立高志中学校開校 1期生入学（令和3年度 7期生入学）
- ・平成30年4月 併設中学校1期生 高志高等学校入学
- ・令和3年3月 併設中学校1期生 高志高等学校卒業

②教育方針

- ・国際社会および地域社会のリーダーとして貢献できる知徳体の調和のとれた人材育成

③教育目標

- 「地域社会、国際社会のリーダーとなる高い学力と豊かな人間性の育成」
- 「ふるさと福井への深い知識と大きな誇りの成果」
- 「世界に通用する語学力と国際感覚の育成の成果」

(2) 生徒数（令和4年度）

中学校 90名（3学級）、高等学校 250名（7学級）（内部進学生 90名、高校入学生 160名）

(3) 教育内容

【中学校】

- ・平日に7限目授業を実施。週32～33時間
- ・学校設定科目「英語表現技術」（ALT単独による授業）「論文基礎」（論文作成の基礎を学び、卒業論文を作成）を実施

【高等学校】

- ・興味・関心、進路希望に応じて科目を選ぶ進学型単位制教育課程の実施
- ・SSH、SGHにおいて、地元の大学教授や企業人をメンターとして招聘
- ・海外研修等を通して国際感覚を醸成（海外8コース、国内2コース）

(4) 施設面

- ・高校の既存施設に中学校を設置（職員室、技術室、保健室等の施設を増改修）

(5) 中高一貫教育における成果と課題

【成果】

- ・ふるさとへの誇り・グローバルな視野・チャレンジ精神を高めるのに役立つ
- ・1・2期生の99.3%、3期生の100%が中学校3年までに英検準2級以上を取得
- ・全国高校生ディベート選手権団体準優勝等、英語関係各種大会等で好成績

【課題】

- ・内部進学生と高校入学生がお互いに刺激し合う環境が少ない（内部進学生の約5割、高校入学生の約3割が早期の混合クラス編成を希望）

2-2 国際バカロレア (IB)

1 国際バカロレア (IB) とは

国際バカロレア (IB) とは、課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。高校レベルのディプロマ・プログラム (DP) では、国際的に通用する大学入学資格 (IB 資格) が取得可能であり、世界の大学入学者選抜で広く活用。未来投資戦略 2018 (2018 年 6 月閣議決定) において、IB 認定校等を 2020 年度までに 200 校以上にするとという目標 (2019 年 7 月現在 146 校) を掲げている。

【国際バカロレアの教育プログラム】

◇DP (ディプロマ・プログラム)

－16～19 歳を対象とした 2 年間のプログラム。主に高校で導入。
日本語 DP は、6 科目中 2 科目を英語等で履修。

◇MYP (ミドル・イヤーズ・プログラム)

－11～15 歳を対象とした 5 年間のプログラム。主に中学で導入。
どのような言語でも提供可能。

◇PYP (プライマリー・イヤーズ・プログラム)

－3～12 歳を対象とした 5 年間のプログラム。主に幼稚園、小学校で導入。
どのような言語でも提供可能。

2 導入の効果と課題

- グローバル人材を育成するための有効な方策の一つである。
- 生徒の選択肢が広がる。
- 国内外への進路の多様化に途を開く。
- 教師と生徒双方に高い外国語能力が求められる。
- 高度な指導ができる教員の確保が難しい。
- カリキュラム開発等に時間がかかる。

3 認定プロセスと経費

| | | |
|-------------|-------------------|---------------------|
| 関 心 校 | 1 年目 1 月 | スクールインフォメーションフォーム提出 |
| | 1 年目 3 月 | 候補校申請提出 (4 月 1 日締切) |
| | 1 年目 4～7 月 | 書類検討・候補校認定通知 |
| 候 補 校 | 1 年目 9 月～2 年目 3 月 | コンサルタント決定・コンサルタント訪問 |
| | 2 年目 3 月 | 認定校申請提出 (4 月 1 日締切) |
| | 2 年目 4～9 月 | 書類検討 |
| | 2 年目 10 月 | 申請書フィードバック |
| | 2 年目 11～12 月 | 確認訪問 |
| | 3 年目 2～3 月 | 確認通知 |
| 認 定 校 | 3 年目 4～8 月 | 授業実施準備期間 |
| | 3 年目 9 月 | 授業スタート |

- ・初期投資
設備整備 (実験室等)、候補校申請費・年会費等
- ・年間経費
人件費 (外国人教員 2 人程度、IB 有資格者 12 人程度)
認定後年会費、ワークショップ受講費

4 公立学校の国際バカロレア認定校について

| 都道府県 | 名称 | 学科 | 定員 | うち国際バカロレアコース | DP | 開設年 |
|------|--------------------|---------------|--|-------------------------------------|----|-----|
| 北海道 | 市立札幌開成中等教育学校 | コスモサイエンス科 | 4学級160人 | | ◎ | H31 |
| 宮城 | 宮城県立仙台二華中学校・高等学校 | 普通科 | 6学級240人 (中学105人) | | ◎ | R3 |
| 東京 | 東京都立国際高等学校 | 国際科 | 6学級240人 | ・日本人生徒15人 ・外国人生徒5人 ・9月入学者様15人 | ○ | H28 |
| 神奈川 | 神奈川県立横浜国際高等学校 | 国際科 | 5学級185人 | ・20人 ・海外帰国生徒5人 | ◎ | H31 |
| 山梨 | 山梨県立甲府西高等学校 | 普通科 | 5学級200人 | | ◎ | H31 |
| 滋賀 | 滋賀県立虎姫高等学校 | 普通科 | 5学級200人 | | ◎ | R2 |
| 大阪 | 大阪市立水都国際中学校・高等学校 | グローバル探究科 | 4学級160人 (中学80人) | | ◎ | R2 |
| 広島 | 広島県立広島観智学園中学校・高等学校 | 普通科 | 2学級60人 (中学40人) | | ◎ | R4 |
| 高知 | 高知県立高知国際中学校・高等学校 | 普通科 グローバル科 | 普通科5学級200人 グローバル科2学級80人 (中学120人) | グローバル科より20人 | ◎ | R3 |

※大阪市立水都国際は、公設民営(管理運営は大阪YMCA)

◎は、日本語DP実施校

5 先進校例(滋賀県立虎姫高等学校)

①学校概要

○教育目標

質実剛健の校風の下に、真に実力を持ち、我が国の発展と国際社会の繁栄に貢献できる人間を養成する。

○SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の取り組み

平成24年度よりSSHの指定を受け、全ての生徒を対象に理数系探究プログラムを実施。

○国際バカロレア(DPプログラム)認定の経緯

滋賀県から指定を受け、国際バカロレア機構から認定を受けることを目指し、平成26年度から、研究開発に取り組んできた。平成30年度にDPの認定を受け、令和2年度に1期生入学。

②課題

○人材確保

国際バカロレア機構が実施するワークショップを受講しIB教員の資格を得た教員が必要。持続可能な学校運営のためには、IB教員の有資格者の人数確保が必須。

外国人講師は、全世界に募集をかけているが、全国的に獲得競争が激しく、確保が困難。

○生徒の取り組み

DPプログラムに取り組むためには、英語力や思考力、表現力が求められるため、対応できる生徒は少ない。

○予算確保

国際バカロレア機構への申請費や年会費、施設設備費、書籍代など認定および維持に多額の費用がかかる。